

地下構造物浮力防止工事 — 仮設（残置式）グラウンドアンカー工法 —



本工事は既存構造物を解体し、地下構造物を残した状態で新設躯体を築造する工事で、地上部を解体していくと自重が軽くなり地下躯体に浮力が生じてしまう。そこで、地下底版部に浮力対策として、鉛直仮設グラウンドアンカー工法が採用されました。

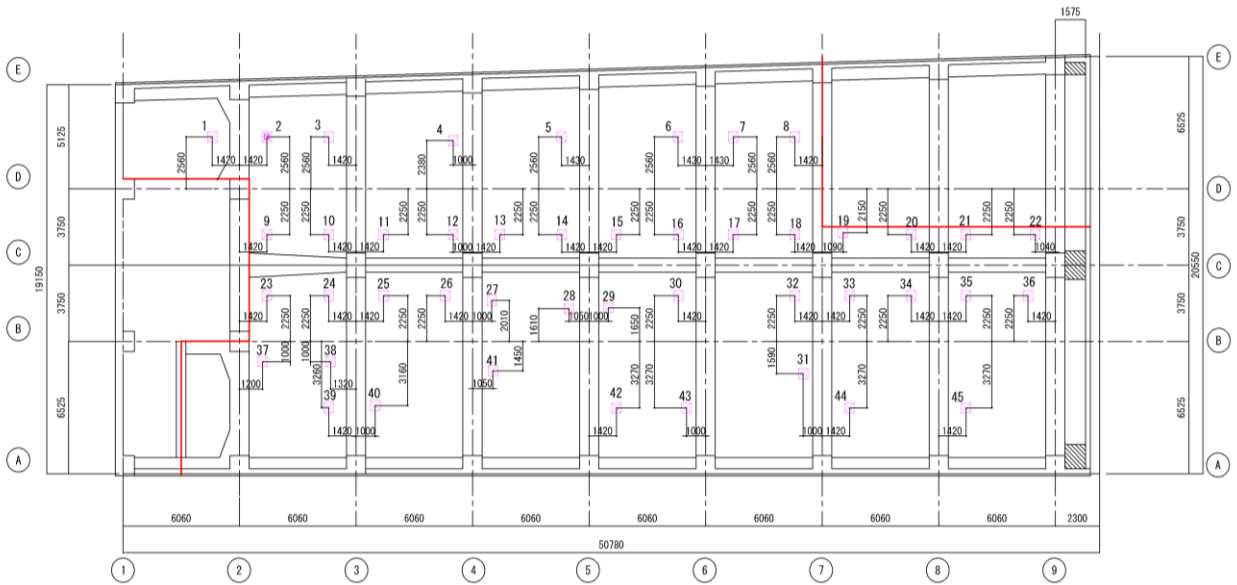
施工版レベルは、地上部解体前に狭隘な1FLに小型削孔機を設置し、耐高水压対策として、地下ピット（GL-12.4m）から1FLまでガイド管を建込み施工を行いました。

施 工 数 量

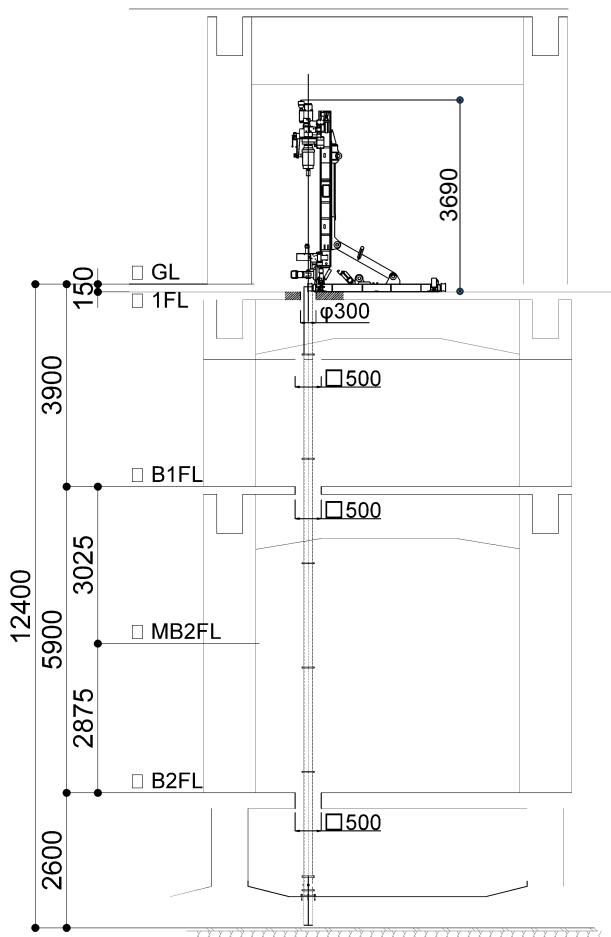
施 工 本 数	52本
ア ン カ ー 延 長	520.0m
ア ン カ ー 長	10.0m (自由長6.5m+定着長3.5m)
削 孔 径	φ 135mm
ア ン カ ー 仕 様	Φ 12.7mm×4



平面図



断面図



ガイド管建込み状況



プラント

